

For Discussion Purpose Only

Wellbeing-Based Policy Design (WBPD)

OASIS研修 成果発表

所属組織名： 加古川市 1 班

氏名： デジタル改革推進課 安藤 宗一郎 スポーツ・文化課 橋本 裕美子
農林水産課 畑中 慎介 環境政策課 辰巳 剛成
高齢者・地域福祉課 石原 雅和



Smart City
Institute Japan

加古川市民のウェルビーイング因子のSWOT分析（8領域の選択）

都市環境の設問
 自然環境の設問
 地域の人間関係の設問
 自分らしい生き方の設問

	T（脅威）	O（機会）
S （強み）	<p>（主観50以上、客観50未満を記載）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初等・中等教育 ↗ ・公共空間 ↗ ・事故・犯罪 ↗ ・文化・芸術 ↗ ✓ 	<p>（主観と客観の偏差値50以上を記載）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療・福祉 → ・住宅環境 → ✓ ・地域とのつながり ↘ ✓ ・自己効力感 ↘ ・買物・飲食 ↗ ・デジタル生活 ↗ ・健康状態 ↘
W （弱み）	<p>（主観と客観の偏差値50未満を記載）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動・交通 → ✓ ・地域行政 → ・自然景観 → ・自然災害 ↗ ・教育機会の豊かさ → ✓ ・事業創造 ↗ ・遊び・娯楽 → ・都市景観 → ・自然の恵み ↘ ✓ ・多様性と寛容性 ↘ ・雇用・所得 ↘ ✓ 	<p>（主観50未満、客観50以上を記載）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て ↘ ✓ ・環境共生 ↘

加古川市 2023年度個別調査 主観・客観散布図 (SWOT)

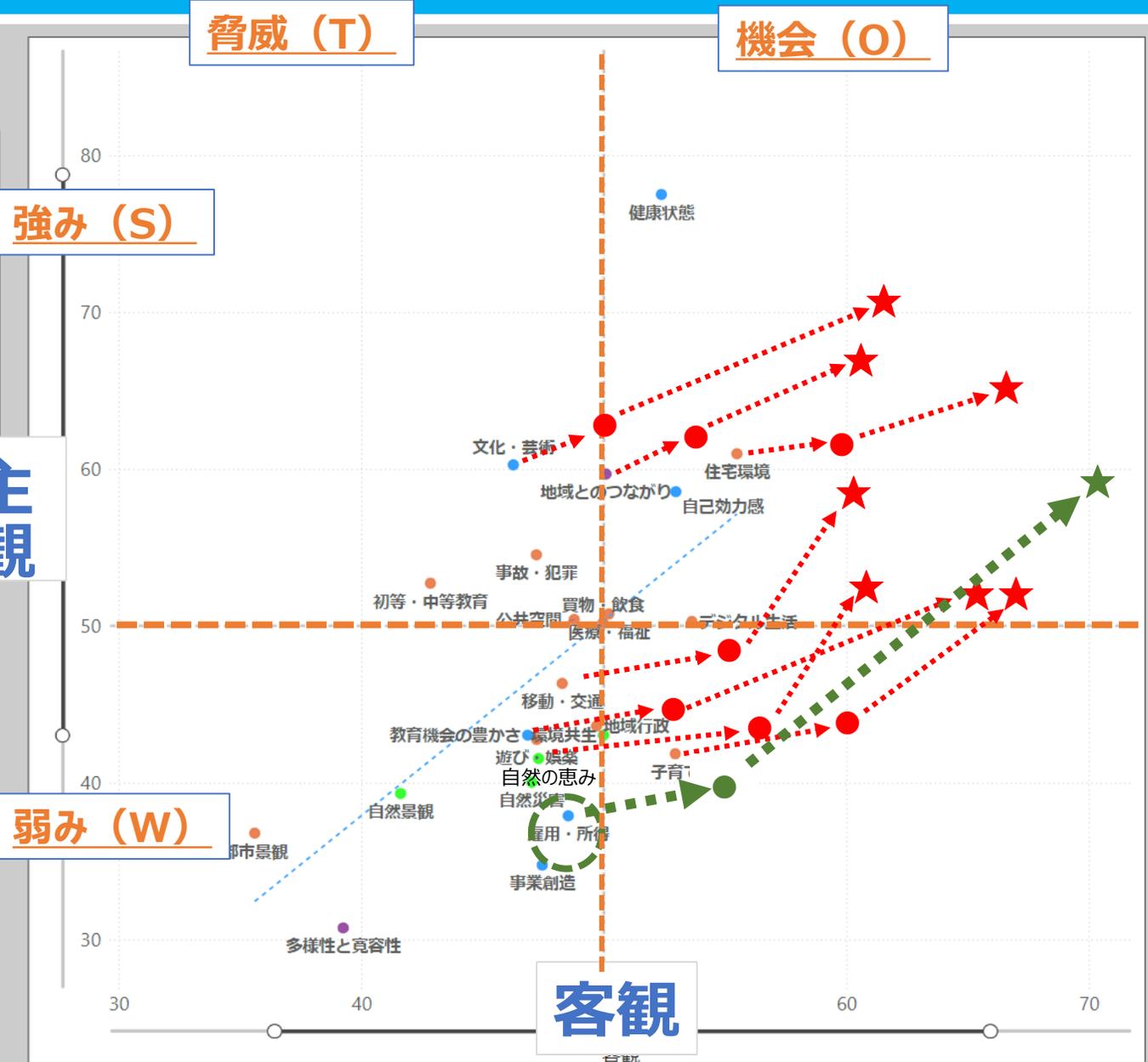
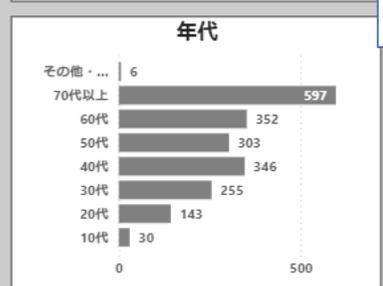
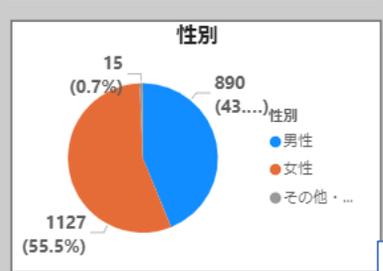
主観・客観 散布図

主観
○ 2024年度
● 2023年度

客観
● 2024年3月公開
○ 2023年6月公開

- 自治体**
- Search
- 兵庫県加古川市
 - 兵庫県赤穂市
 - 兵庫県西脇市
 - 兵庫県宝塚市
 - 兵庫県三木市
 - 兵庫県高砂市
 - 兵庫県川西市
 - 兵庫県小野市

回答者数
2,032



「雇用・所得」

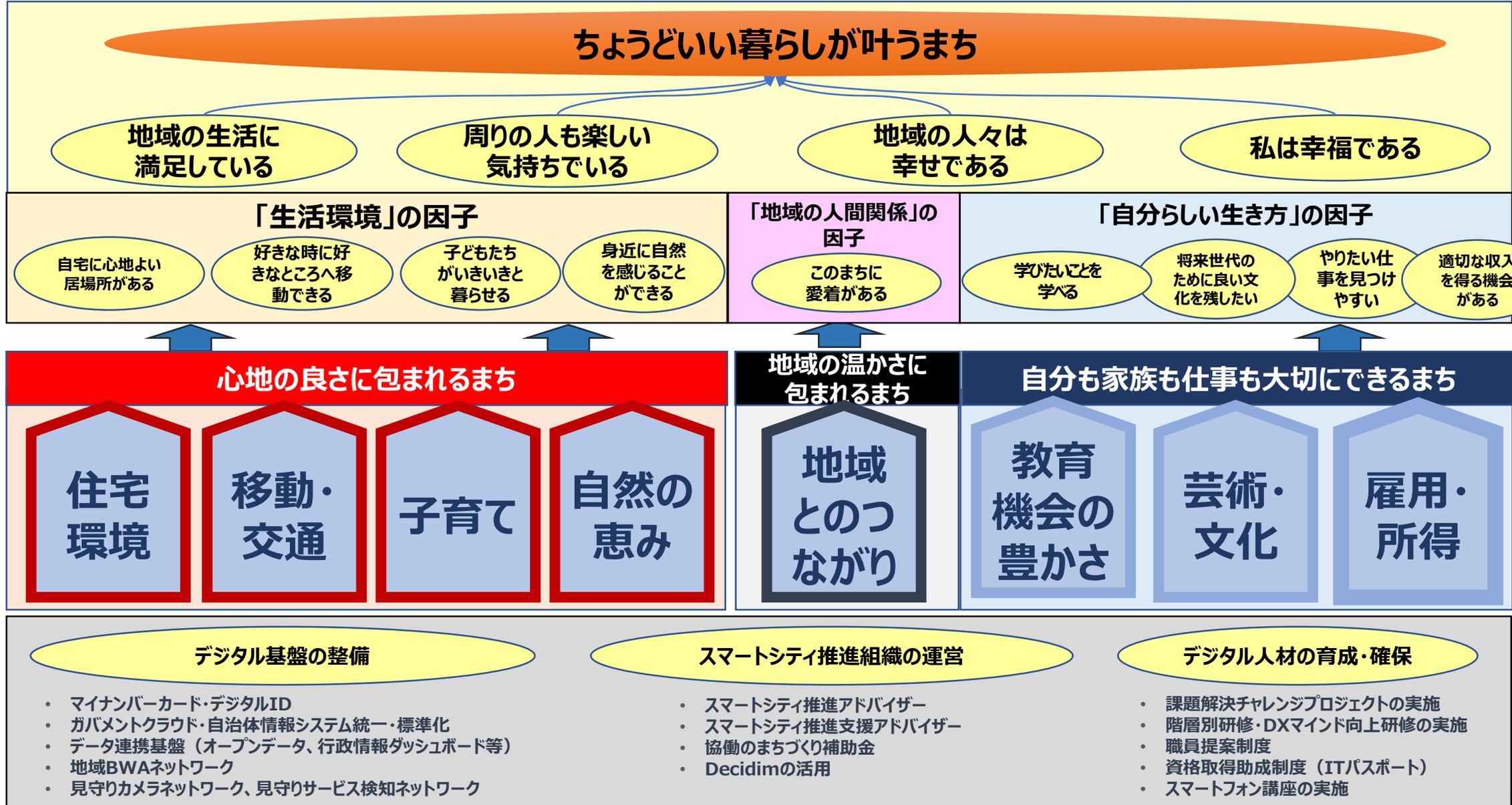
	現状	3年後	10年後
主観	37.9	44	60
客観	48.5	55	70

市が実践すべきウェルビーイング政策の全体を整理した「統合マップ」

ウェルビーイング・インパクトの視点

政策の視点

デジタルと人の共創基盤の視点



市が実践すべきウェルビーイング政策の全体構造の説明

加古川市における市民の幸福度の向上
～ちょうどいい暮らしが叶うまち 加古川～



仕事に追われる毎日から脱却し、自分や家族の時間を大切に、ちょうどいい暮らしが実現するまち

「生活環境」

心地の良さに包まれるまち



自宅やまちの中に心地のよい居場所があり、あらゆる世代が住み続けたいなるまち

「地域の人間関係」

地域の温かさに包まれるまち



新たに生まれた自分時間や家族時間を通じて、地域に住む人との繋がりや温かさを感じられるまち

「自分らしい生き方」

自分も家族も仕事も大切にできるまち



自分・家族・仕事時間のバランスが良く、思い描く生き方が実現するまち

市民のウェルビーイング向上のために注力すべき8つの政策領域の選択理由

政策領域① 住宅環境

(選択理由) 幸福度・生活満足度いずれも相関が高く、住宅環境の整備が生活に影響すると考えられる。交通利便性に加え、周辺環境も含めた整備を進める価値が高いと考えるため。

政策領域② 移動・交通

(選択理由) 地域柄、車社会であり、年齢が上がるにつれて客観的な数値は高くなる傾向。地域や時代に合った移動手段の導入は生活満足度と今後さらに密接に関わってくると考えるため。

政策領域③ 子育て

(選択理由) 客観的指標は近隣市等の中でも偏差値が高い一方、主観的指標が低い。子育ての充実が生活満足度の向上に寄与し、将来的な人口減少の緩和に繋がると考えるため。

政策領域④ 自然の恵み

(選択理由) 市北部の隣接する自治体に比べ、本市の両指標は偏差値が低い。将来にわたり自然の恵みを楽しむためには、それを維持するための施策を展開し、両指標を向上させることが重要であるため。

政策領域⑤ 地域とのつながり

(選択理由) 年齢が高いほど幸福度との相関が高い傾向にあり、今後の更なる高齢化社会や災害時に備え、地域とのつながり(地域における共助)は重要な役割を果たすと考えるため。

政策領域⑥ 教育機会の豊かさ

(選択理由) 教育環境に限らず、学びたいことを学べる機会が生活圏内に存在することは、個々の生活を豊かにし、主観指数が向上する可能性があると考えため。

政策領域⑦ 芸術・文化

(選択理由) 特に若い世代において主観的な数値が高く、生活における文化・芸術の充実が幸福度や生活満足度の向上に寄与すると考えるため。

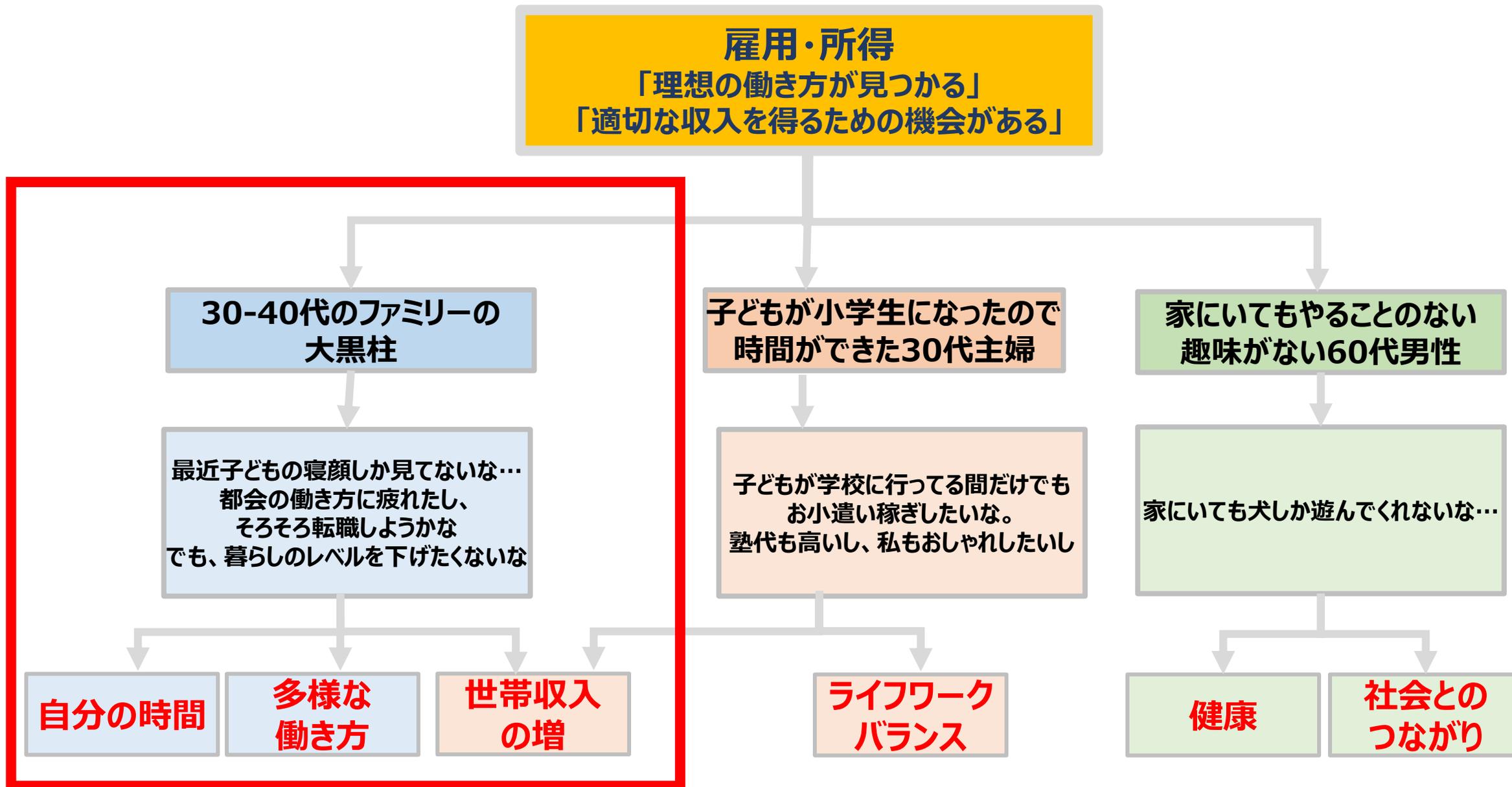
政策領域⑧ 雇用・所得

(選択理由) 主観・客観の両指標とも50を下回っており、本市の弱みに該当する領域。本市の総合戦略の重点事項である「しごと」に強く関連し、まちの将来を担う20～40代とその子どもに思い描くライフスタイルで住み続けてもらうことが重要と考えるため。

市の未来像に関するイメージ

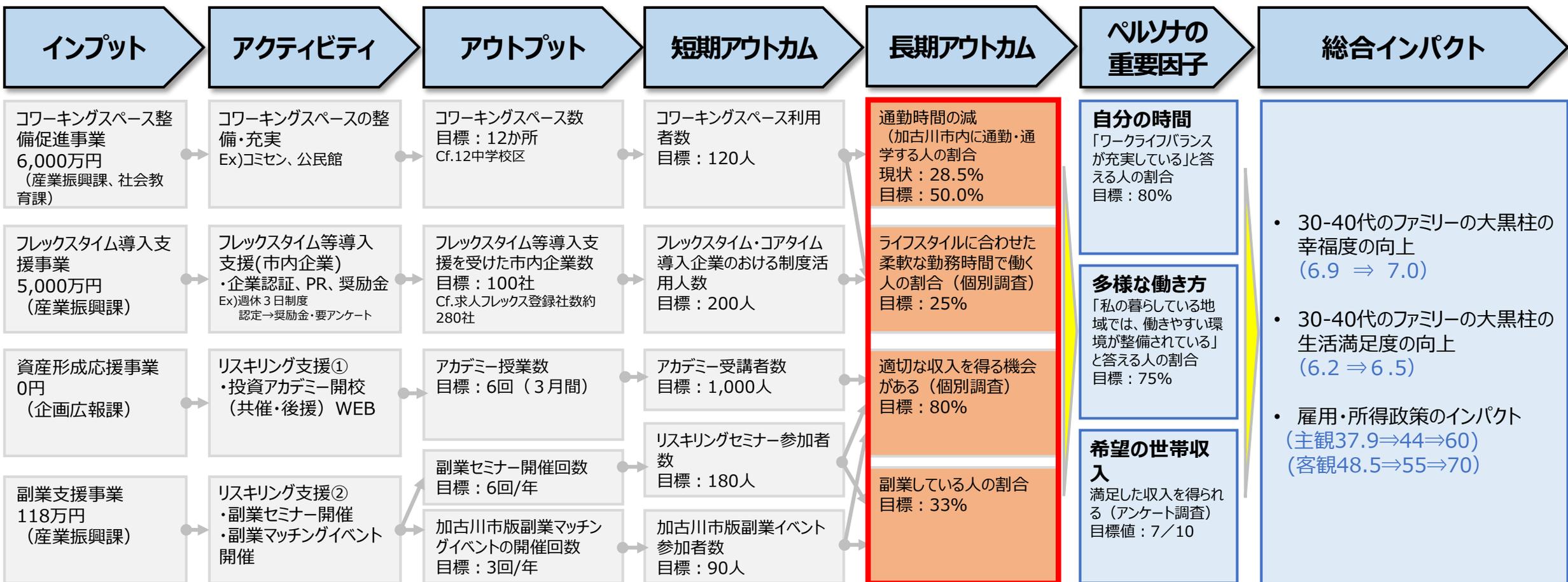


インパクトを最大化政策に関するペルソナ・ロジックツリーを選択する



【雇用・所得】 ちょうどいい暮らしが叶うまち 【ペルソナ】30-40代のファミリーの大黒柱

現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・最近子どもの寝顔しか見てないな… ・都会の働き方に疲れたし、そろそろ転職しようかな ・でも、暮らしのレベルを下げたくないな 	将 来 像	<ul style="list-style-type: none"> ・リスキングによる所得の増 ・年に1回は家族で海外旅行 ・帰宅時間が早くなってプライベート時間の増 ・セカンドライフに向けた準備も順調
----------------	--	----------------------	--



市独自の質問項目や客観指標として追加すべきもの（セカンドレイヤー）

【市独自の質問項目として追加すべきもの】

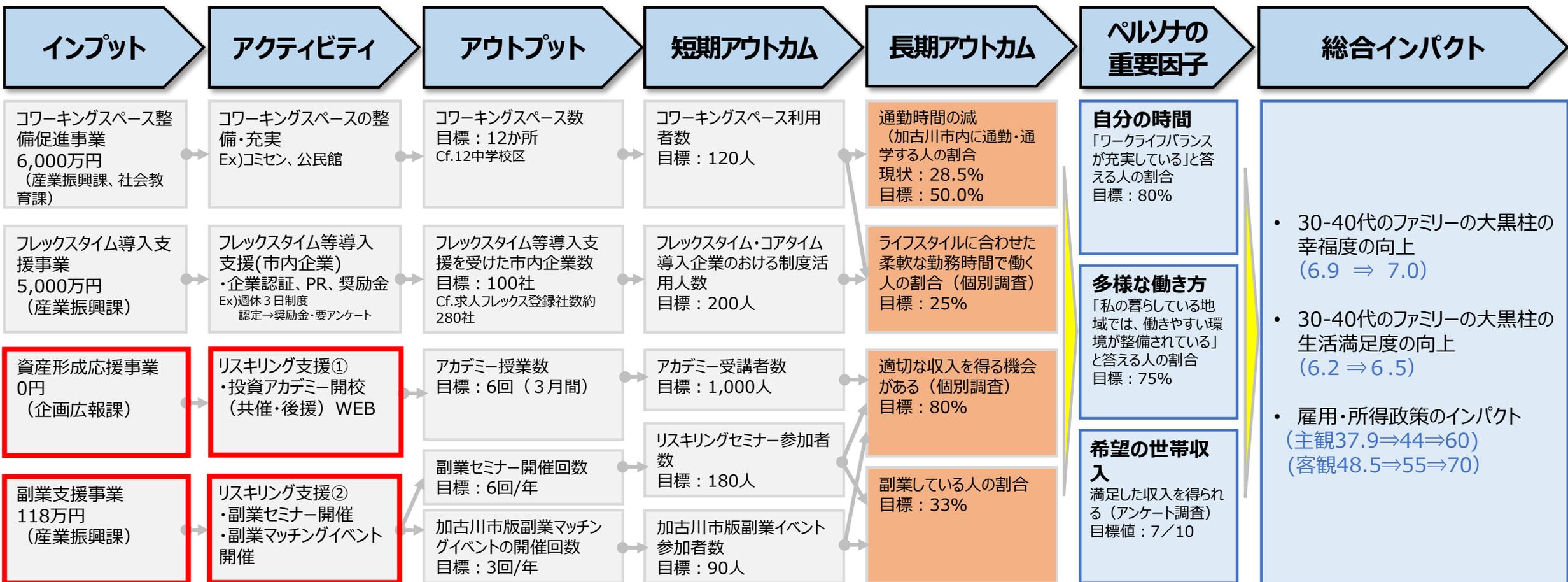
- 「ライフスタイルに合わせた柔軟な勤務時間で働くことができる」
- 「適切な収入を得る機会がある」
- 「満足した収入を得ていると感じる」
- 「家族との時間を大切にできている」
- 「副業スキルを身につける機会がある」
- 「新しい知識やスキルを得たいと思う」
- 「時間を有効活用できている」

【市独自の客観指標として追加すべきもの】

- フレックスタイムやコアタイムなど柔軟な勤務時間で働いている人の割合
- コワーキングスペース利用者数
- フレックスタイム・コアタイムを導入している市内企業数
- 副業により収入を得ている人の割合

【雇用・所得】 ちょうどいい暮らしが叶うまち 【ペルソナ】30-40代のファミリーの大黒柱

現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・最近子どもの寝顔しか見てないな… ・都会の働き方に疲れたし、そろそろ転職しようかな ・でも、暮らしのレベルを下げたくないな 	将 来 像	<ul style="list-style-type: none"> ・リスキングによる所得の増 ・年に1回は家族で海外旅行 ・帰宅時間が早くなってプライベート時間の増 ・セカンドライフに向けた準備も順調
----------------	--	----------------------	--



自分の市が導入すべき幸福度指標の仕組みを改めて考える

【加古川市 幸福度指標システム】

【属性データ】

- 性別
- 年齢層
- 居住地域
- 居住年数
- 家族構成
- 住居
- 職業
- 勤務地
- 世帯年収
- 通勤時間

【ウェルビーイングデータ】

- 主観データ
 - 幸福度指標全国調査結果
 - 市民意識調査結果
- 客観データ
 - RESAS
 - e-Stat
 - 市オープンデータ
 - 市統計データ

X

X

【分析枠組み・指標】

- 階層型 + 並列型
 - □ジックツリー
 - 因子分析
 - 重回帰分析
 - 相関分析

⇒

【分析結果】

- 自治体全体
 - 幸福度
 - 生活満足度
- セグメント・ペルソナ別
 - 幸福度
 - 生活満足度

市が導入すべき「ウェルビーイング指標活用プロセス」

【市民参加】

- 市民アンケート
- ワークショップ
 - ・現地での対面型ワークショップ
 - ・市民参加型合意形成プラットフォーム(Decidim)の活用
- フォーラム

X

【人材育成】

- 職員向け研修（庁内・庁外）
- 自治体間勉強会
- 官民勉強会
- ハローワークとの連携
- 学術機関との連携
 - ・学内授業
 - ・学校主催の市民会議

X

【報告・モニタリング】

- 地域幸福度調査
- 市民意識調査
- KPIの進捗管理
- 市民参加型合意形成プラットフォーム(Decidim)での共有
- 各部署の附属機関等の会議

市の未来像に関するイメージ



For Discussion Purpose Only

ご清聴ありがとうございました



Smart City
Institute Japan